



【気象制御技術 × 物語創作】

豪雨とともに生きる、未来のデザインワークショップ

— 研究最前線から未来を創造しよう

About

近年、日本各地で発生する豪雨災害。その背後には、地球温暖化や都市のヒートアイランド化という人間の活動がもたらした課題が横たわっています。

現在、多くの研究者が、豪雨災害から人命を守るため、大規模災害を緩和するための技術研究を行っています。これは、自由自在に天気を操るという話ではなく、自然との共存関係を考えることに近い研究です。私たちの先人は、古来より自然との対話を通じて暮らしを築いてきました。雨乞いや晴れ乞いの祈りに見られるように、自然の脅威を知覚しつつも敬意を払い、共生する知恵を培ってきたのです。しかし現代では、その関係が揺らぎつつあります。

このワークショップでは、最新の気象制御の技術研究と、未来を創造するストーリー制作を通じて、「人類と自然の新しい関係」を探ります。

「豪雨」という身近で、かつ自分たちにも大きな影響を及ぼすテーマで、一緒に未来を考えてみませんか？

ポイント

- 気象制御技術の最前線にいる研究者と直接話しをしながら、理解を深めることができます
- SF作家との未来を創造するワークショップを通して、科学技術が社会に与える影響を考察することができます
- 参加者が創作した物語が、大阪・関西万博における展示作品中に登場する可能性があります

「豪雨制御プロジェクト」について



ゲリラ豪雨と線状対流系豪雨を対象として、豪雨の強度や発生頻度を抑制するための研究開発に取り組んでいます。京都大学防災研究所や愛媛大学等に所属する様々な専門領域の研究者が集まり研究を進めています。国立研究開発法人科学技術振興機構が推進する「[ムーンショット型研究開発事業](#)」の目標8に採択されたプロジェクトです。

より詳しい研究内容についてこちらのWEBサイトを御覧ください。

<https://rain-c.dpri.kyoto-u.ac.jp/>

Program

項目	内容
Part 1 (60min) 気象制御技術の 研究最前線を知ろう	研究者による「気象制御技術」に関する講演 - 人々の暮らしと豪雨の関係 - 気象を操作する道具と目的 - 技術発展と社会への影響 - シミュレーションをもとにしたものづくり
Part2 (60min) 気象制御が実現した 未来の物語を創作しよう	SF作家とのワークショップ - 気象制御技術の実現した未来社会の構想 - ストーリーの創作演習 - グループディスカッション

Outline

開催日	2025年1月25日（土） 14:00-16:00 ※開場13:45-
会場	JAMBASE マルチスペース（大阪市北区大深町6番38号）※JR大阪駅から徒歩約7分
対象・定員	高校生・大学生 30名 ※申込多数の場合抽選となります
参加費	無料
持ち物	筆記用具、ノートPCやタブレット（推奨）
申込み	Googleフォームへ必要事項を記入 こちらのリンクより申込みください。 https://forms.gle/Jg4GYvu8JMYLm5tB9
主催・問合せ	豪雨制御プロジェクト（京都大学防災研究所）、株式会社ロフトワーク 担当：株式会社ロフトワーク 加藤あん an.kato@loftwork.com
ご注意	・プログラムは、予告なく変更される場合があります。 ・参加者の皆さんの写真や議論の内容は、後日Loftwork.comに掲載する場合があります。

Speaker



山口弘誠

京都大学 防災研究所 気候変動適応研究センター 准教授

2009年京都大学 大学院工学研究科 博士後期課程修了、博士(工学)。京都大学 学際融合教育研究推進センター 特定研究員、京都大学防災研究所 特定助教を経て2016年より現職。専門は水文気象学。特に災害をもたらすような雨雲の発生過程を研究している。自然を肌で感じて、想像力と創造力を磨くことがモットー



津久井五月

SF作家

1992年生まれ。テクノロジーによる人間や社会の変容に関心を持って小説を執筆している。東京大学・同大学院で建築学を専攻。2017年「天使と重力」で日経「星新一賞」学生部門準グランプリ。クマ財団の支援クリエイター1期生。『コルストピア』でハヤカワSFコンテスト大賞。2021年「Forbes 30 Under 30」(日本版)選出。